



マクラーレン・レーシング

# レーシングスポーツの世界から見る チームの生産性とサステナビリティ

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、リモートワークが急速に普及し、働く場所や働き方が大きく変化しました。これにより、業務内容やライフスタイルに合わせて働く場所を柔軟に選択する「ハイブリッドワーク」のニーズが高まっています。このビジネストレンドに対応するには、たとえ離れた場所に居ようとも従来と変わらず、メンバー同士で密にコミュニケーションを取れるような環境づくりが求められます。そこで、「レーシングスポーツの世界から見るチームの生産性とサステナビリティ」をテーマに、モデレーターとしてシスコシステムズの石黒圭祐が、マクラーレンF1の今井 弘氏に話を聞きました。

Webexによって以前よりも  
コミュニケーションの質が向上し、  
個人のアベイラビリティが高まったと  
感じています。

——マクラーレンF1 ディレクター・レースエンジニアリング  
今井 弘氏





マクラーレンF1  
ディレクター・レースエンジニアリング  
今井 弘氏



シスコシステムズ合同会社  
執行役員 SMB・デジタル事業統括  
石黒 圭祐

## スタッフとのコミュニケーションがレース結果に直結？

モータースポーツ最高峰のF1において、名門チームとして長きにわたり名を馳せるマクラーレンF1。今井氏は2009年から同チームに所属しており、レース現場でのサポートやテスト走行の計画立案などメインに業務を行っています。

F1と聞くと個人スポーツをまずイメージするかと思いますが、実際には、F1ドライバーを支える現場スタッフが約100人、ファクトリーで働くエンジニアが約600人在籍するなど、チームスポーツの側面が大きいとされています。マクラーレンF1では、ドライバーが100%のパフォーマンスを発揮できるように、個々のメンバーのリソースを結集し、チーム一丸となってサポートにあたっています。

「2021年には世界中で22戦のレースが行われました。現場でドライバーをサポートする立場にありますが、実際にレースに必要な情報はファクトリーのエンジニアが持っているため、彼らと円滑かつタイムリーにコミュニケーションを取り、正確に情報共有しなければなりません。当然のことながら、レース日程はあらかじめ決まっているため、そのスケジュールに向けて準備を進めていく必要があります。だからこそ、リソースをフル活用し、世界中のどこにしようとも、タイムリーでストレスフリーなコミュニケーションが必須となります。コミュニケーションの質が、レース結果に直結するといっても過言ではないでしょう」(今井氏)

## Webexでリモートコミュニケーションが加速

世間一般では、新型コロナウイルスにより出社制限等の処置がとられましたが、グローバルで転戦するF1チームでは、コミュニケーションにおいてどのような影響があったのでしょうか。

「マクラーレンF1では世界中を転戦するスタッフも多いため、コロナ禍前からリモートでのコミュニケーションには慣れていました。ですが、2020年のコロナ禍により人との接触を最小限に抑える必要が出てきたことから、レース現場から戻ったとしてもファクトリーに戻らず、在宅で作業を行うケースが多くなりました。今ではコミュニケーションツールを使ったコラボレーションが当たり前になっています。これは非常に大きな変化だと実感しています」(今井氏)

マクラーレンF1では、コミュニケーションがリモートにシフトしているとのことでしたが、日常の業務におけるさまざまなシーンでWebexを活用しているようです。

「現在では、レース現場やファクトリーにどうしても赴かなければならない場合を除き、常にWebexを使って自宅から作業している状況です。また、ファクトリーのメンバーと会議をする際など、さまざまなシーンでWebexが活躍しています。Webexによって以前よりもコミュニケーションの質が向上し、個人のアベイラビリティが高まったと感じています。オンラインを通してメンバーの在席状況が見えるため、タイムリーにいつでも好きな相手とコミュニケーションできたり、会議室の調整が不要になったり、通勤時間が削減されたりと、全体的に業務の生産性が向上しました」(今井氏)

## サステナビリティのあるコミュニケーションを実現するには

オンラインでのコミュニケーションによってさまざまなメリットを得られた一方、リモートならではの課題も生まれてきたと今井氏は話します。

「コミュニケーションがオンライン中心になることで、ちょっとした雑談の機会がなくなり、そこから生まれてくるアイデアが得られにくくなるという懸念は確かにあります。ですが、時間と場所を問わず会話できるメリットの方が大きいため、うまく共存できないか検討しています」(今井氏)

マクラーレンF1では、コミュニケーションの質をさらに向上させたいと考えています。例えば、ある課題が生じた際、チームの所属歴が長いメンバーであれば、すぐに適切なメンバーに問い合わせたうえで課題解決に取り組めるものの、右も左もわからない新人にとっては「誰に聞けば良いかわからない」と悩み、最初の一步が踏み出せないことがあります。

そこでマクラーレンF1では、チャットなどを活用し、シニアメンバーが率先して新人メンバーと会話するなど、コミュニケーションの機会を増やそうとしています。こういった取り組みを通して、オンラインでの会話不足を補完し、チーム力の向上に取り組んでいます。さらに、マクラーレンF1では、より良いコミュニケーションを維持するために「サステナビリティ」にも配慮しています。





マクラーレン・レーシングは、1963年にニュージーランドのレーシングドライバーであったブルース・マクラーレンによって設立されたイギリスのレーシングチームです。1966年よりF1に参戦しており、F1世界選手権で10回、F1グランプリで180回以上の優勝に加え、初挑戦のル・マン24時間レースや、インディアナポリス500において3回の優勝を記録しています。

マクラーレン・レーシングは現在、グローバルでF1、米国でインディカーに参戦しています。2021年、FIA F1世界選手権におけるドライバーはランド・ノリスとダニエル・リカルド、インディカーではパト・オワードとフェリックス・ローゼンクヴィストを起用しています。また、第105回インディ 500からは、アロー・マクラーレンSPシボレーの3台目でファン・パブロ・モントーヤが参戦する予定になっています。

「レースシーズンが始まると忙しくなりますし、連戦が続くと体力が消耗していきます。年間20レース以上を常にベストなコンディションで過ごすというのは難しいので、サステナビリティの配慮が非常に重要な要素になっていきます。そのためにも、個々の希望に合わせてフレキシブルに働くようにしながら、チーム全体のパフォーマンスを継続的に上げていきたいですね。もちろん、業務を進めるためにはコミュニケーションが必要ですから、その部分はツールを活用して補っていかうと考えています」(今井氏)

## コミュニケーションツールのさらなる活用で働き方を高度化

シスコでは、企業のハイブリッドワーク導入を支援しています。これまでは、働く場所は主にオフィスでした。ポストコロナ時代では、在宅勤務を含めて働く場所の選択肢が増え、自分が最も高いパフォーマンスを出せる環境で働くことが重要になります。そのためにも、よりクオリティの高いコミュニケーションを実現するソリューションが必要です。

今回のセッションでは、Webex専用端末である「Webex Desk Pro」が使われました。Webex Desk Proの使用感について今井氏は、以下のように評価しています。

「Webex Desk Proを活用することで、非言語コミュニケーションの課題が多少なりと解決できるのではないかと思います。オンラインコミュニケーションで見落としがちなのが、『ニュアンス』です。実際に対面で話すときには声色や表情などから自然にニュアンスを読み取っているのですが、オンラインではニュアンスを読み取るのが困難になります。Webex Desk Proは映像や音声のクオリティが高く、表情や音声からニュアンスを感じ取りやすいと感じています」(今井氏)

最後にこれからの働き方について、今井氏は次のように述べました。

「2021年は22レースありましたが、今後レース数が増えていく計画もあります。数多くの世界を駆け巡ることになるわけですから、サステナビリティをいかに確保するのが今後のキーワードになってくるでしょう。例えば、家族ともっと多くの時間を過ごせるよう体制を整備したり、時間と場所を問わずフレキシブルに働ける環境を用意したりと、個人の希望を叶えるためにコミュニケーションツールをこれまで以上に活用していきます」(今井氏)

## その他の詳細情報

Webexの詳細は <https://www.webex.com/ja/index.html> をご覧ください。



## シスコ コンタクトセンター

自社導入をご検討されているお客様へのお問い合わせ窓口です。  
製品に関して | サービスに関して | 各種キャンペーンに関して | お見積依頼 | 一般的なご質問

お問い合わせ先  
お電話での問い合わせ  
平日 10:00 - 17:00  
0120-092-255

お問い合わせウェブフォーム  
[cs.co/jawebex2316](https://cs.co/jawebex2316)



©2022 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

Cisco, Cisco Systems, およびCisco Systemsロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の一定の国における商標登録または商標です。本書類またはウェブサイトに掲載されているその他の商標はそれぞれの権利者の財産です。「パートナー」または「partner」という用語の使用はCiscoと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1502R) この資料の記載内容は2022年5月現在のものです。この資料に記載された仕様は予告なく変更する場合があります。

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー  
[cisco.com/jp](https://cisco.com/jp)

2316-2205-000-N

webex by cisco